

# 高次脳機能障害のある人と一緒に展覧会を鑑賞することを通して

# 以身伝しんぶん

高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会

日時：10月26日（金）13：30～15：00

対象：高次脳機能障害のある人、

高次脳機能障害のある人と芸術を楽しみたい人

あらゆる人が文化・芸術の魅力を感じ合える環境整備（アクセシビリティ）の向上にむけ、障害のある人が芸術に親しみ、楽しめるプログラムを実施しました。

10月26日、「高次脳機能障害のある人とともに楽しむ芸術鑑賞会」がありました。10名程の参加者で秋晴れのENGAWAからスタート。NOMA一階蔵↓二階↓奥村家の順に鑑賞して行きます。徳山彰さんの作品は一度目を閉じて触って形を感じてみました。草薙陵太さんの作品では、じっくり観賞した後、どのように感じたかを一人一人話していきま

す。草原のように見える、夕方、火山の炎、花が咲いている、道がある…や、作者の生き

（記者 羽者家）



奥村家で展覧会の感想を聞きあう参加者たち

## 世界は違いの上にある

高次脳機能障害は外見からは気づきにくい障害と言われる。26日に行われた表題の鑑賞会は秋晴れの下の縁側からほつりと始まった。…が、参加者の紹介や障害の説明の時間はなく、プログラムが進んで行く。先に述べた障害の特性から「近くにいっても気づかない」そんな状況が設定されていたのかもしれない。会場を回り参加者一人ひとりの作品に対する感じ方に耳を傾ける。もちろん感じ方と表現のし方は皆、一致が興味深い。結局、先に述べた様な紹介は最後までなかった。わかっていたのは、中に高次脳機能障害を持った方がいた、ということだけ。世界は違



草薙陵太さんの作品について対話する参加者

## 目にみえない障害とは

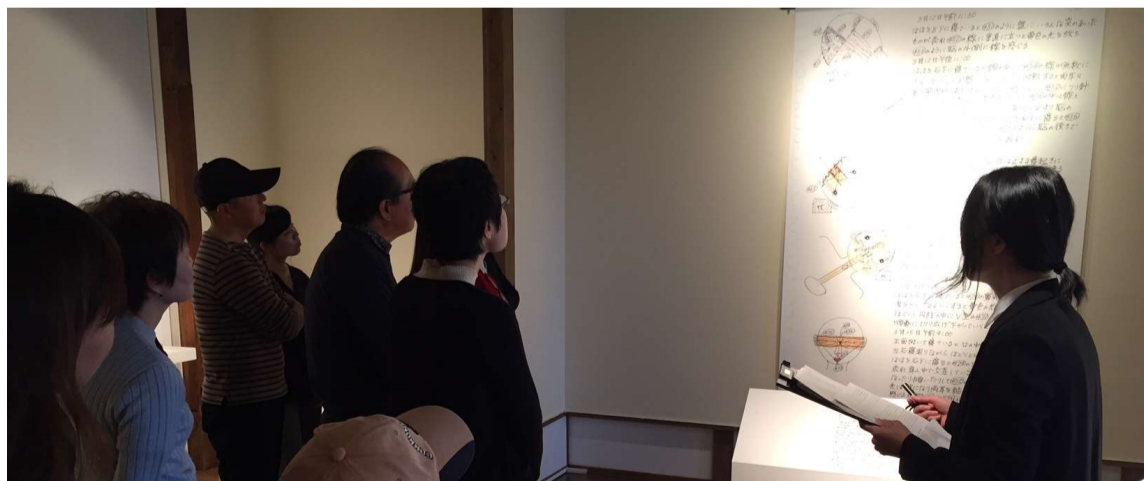
杖をついているな。盲導犬をつれているな。…障害のある方は見れば判るのでしようか？日本では法的に障害者と認定されている方（身体障害や療育等何らかの手帳取得者）はどの位いるか知っていますか？100人に一人？

正解はおおよそ15人に一人！初めてそのことを知った時、私はびっくりしました。障害のある方をそんなに見かけないのに。

今回NOMAで行われた「高次脳機能障害のある人と一緒にアートを楽しむ」は、「障害は目にみえない」

を改めて実感する機会となりました。参加者の自己紹介は無く、障害の有無や介助者、参加者も不明のまま。集まった人々は受付後、展覧会場で展示解説を聞き、作品観賞後、感想を述べ合う。感想を述べる以外は、普段美術館で作品を観ると何ら変わりが無い。しかし、それが障害のある人と一緒にアートを楽しむことが特別なことでは無く、今までも気が付いていないだけで、すでに行われていたかもしれないことだと気付かせてくれました。

（記者 伊賀）



Hさんの作品を読み、そこから広がるイメージに想像を広げる

## 作品に対する印象は多種多様

秋晴れと爽やかな風に包まれながら行われた鑑賞会。10数名の参加者が、展示作品を鑑賞することはもちろん、作品に触れたり時に作品から感じた印象を共有したりと、普段の鑑賞ではなかなか行わないことを中心に展示を楽しんだ。特に作品に対する印象は多種多様で、自分の中にはなかった意見を聞くことでより一層作品に対して考えを深められたように思う。私自身、はじめは他の人とはどことなく距離があったが、説明を聞き意見交換をしていくうちに自然と他の鑑賞者の方に話しかけたり会話をできたりするようになり、このプログラムの思わぬ効果を感じた。展覧会の名前である「以身伝心」にふさわしく、身体でも感じられる特別な鑑賞体験だった。

（記者：坪田）



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら  
[https://www.instagram.com/borderless\\_area\\_kisya\\_club](https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club)